断酒例会とオンライン断酒会を比較検討して院内断酒会の有効活用を考える

〇看護師Ａ[1)]　看護師Ｂ[1)]　看護師Ｃ[1)]
看護師Ｄ[1)]　医師Ａ[2)]
医療法人耕仁会札幌太田病院　1)2階自活力回復棟　2)医局

【はじめに】

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、人が密に集う場の制限が増え、全国的に自助グループもオンラインによる開催が活発にみられるようになった。

当院でも2020年12月より、院内断酒会会場と各病棟、個人宅をオンラインで繋ぐハイブリッド式断酒会を開催し現在も継続している。オンラインを有効活用し有意義な断酒会の運営を目指すため、当院で実施した先行研究（伊藤美弥：オンライン断酒会の効果と課題）を参考としアンケート調査を実施、検証した結果を報告する。

【方法】

質的研究。研究期間はX年8月から1か月間。院内断酒会にオンラインからの参加者3名、病棟からの参加者2名、会場からの参加者3名の計8名に同意を得、アンケート用紙を使用しながら聞き取り調査を行った。聞き取った内容は書き起こしKJ法を用いて分析を行った。

【結果】

参加者全員から78の意見を抽出し最終的に「オンラインはメリットが多く、人との交流がなくとも自助グループとして成り立つ」「人との交流がある通常断酒会に参加したほうが楽しい」「ネット環境が整い、操作方法がわかれば、オンライン断酒会に参加したい」という3つのカテゴリーに分類した。

【考察】

オンライン断酒会では感染リスクが無い、遠方から参加可能、多忙でも参加できるというメリット、通信環境の悪化による音声や画像の遮断というデメリットは先行研究と同様であった。また人との交流が無くても気にならないが、機会があれば直接参加してもよいとの意見があった。通常断酒会では対面で話すことや雑談など、直接的なコミュケーションに必要性と楽しみを見出している。一方で、ネット環境が整い、使用方法が分かればオンライン断酒会にも参加したいと別の参加方法にも興味を持っていた。

インターネット環境の充実とともに人との関わり方も多様化してきており、断酒会のあり方も従来の対面式に囚われず柔軟な方法が求められてきている。一方で操作方法や環境整備に不安を持つ人も多い。当院では今春より1FNCでオンライン断酒会への参加手順の説明を行っているが、個別のニーズに対応した普及活動も必要になると思われる。また、オンライン参加者から指摘のあった会場側参加者のルールについても更に徹底していくことで快適なオンライン参加が可能となると思われる。多忙である日常生活において利用しやすく、かつ個々に有用と感じられるよう多様性を持って環境を整えていくことが活動的で有意義な断酒会に繋がっていくのではないかと考える。

【参考文献】

特定非営利活動法人ASK　依存症当事者・家族によるオンライン活動（マニュアルと事例集）
伊藤美弥　他　オンライン断酒会の効果と課題（参加者へのインタビューを通して）
成瀬暢也　アルコール依存症治療革命